

# 素 顔 拝 見



義歯診療科

大 川 純 平

令和元年5月1日、改元という素晴らしい日に義歯診療科の助教を拝命いたしました、大川純平と申します。この度、「素颜拝見」の執筆という貴重な機会をいただきましたので、自己紹介をさせていただきます。

出身は福井県の鯖江市で、なんととってもメガネで有名な町、「めがねのまちさばえ（公式）」です。大学進学を期にコンタクトレンズになることもなく、メガネをちょっとしたアイデンティティに、新潟大学に44期生として入学しました。卒後研修はBコースとして新潟大学義歯診療科と新潟市民病院歯科口腔外科にて勉強をさせていただきました。確か歯学部生時代には、「卒業したら地元福井に戻って歯医者さんするんだ」と意気込んでいたのに、いつの間にか大学院に進学を決め、包括歯科補綴学分野に入局し、昨年度に博士課程を修了しました。鯖江のメガネは素晴らしいのですが、さすがに未来までは見通せませんでした。

そんなこんなで新潟に腰を据えている？のですが、最近ホットなワードがあります。「医食同源」と「酒は百薬の長」です。新潟の食文化・酒文化に最適な素敵ワードですね。私の大学院での研究としても、レトロネーザルアロマと呼ばれる食事中の香りに注目したものであったため、いざ研究！それ研究！と美味しい食べ物・飲み物をいただき続けております（付き合ってくれる先生方あ

りがとうございます）。やはり日頃のツカレを発散するためには、美味しい食事はすごく健康に寄与していると思います。そしてちょうどいま健康診断の結果待ちで、血液検査のあれこれの値もエンゲル係数に比例して高めとなったんじゃないかと戦々恐々としておりますが、この2つのワードで心の健康も保っている幸いです。ほんと素敵ワードです。このように、食事には高い積極性を見せますので、みなさまとご一緒させていただける機会を楽しみにしています。

さて、文字数制限が近づいてまいりましたので、アカデミック寄りのお話もさせていただきます。

大学院での研究はレトロネーザルアロマを主とし、咀嚼や嚥下の研究をしておりました。大学院を修了してからは、趣味が実益になってほしいとAI（人工知能）の研究も進行中です。AI後進国とも言われる日本ではありますが、医療分野でもその実践が見られるようになってきました。私としても、筋電図や各種センサーの数値データから口腔内外写真、顕微鏡写真までなんでも取り扱う＝気持ち＝だけはありますので、みなさまのおメガネにかないましたら、ご一報いただけますと幸いです。

メガネのステルスマーケティングと最後は研究のダイレクトマーケティングになってしまいました。研究・臨床・教育と歯学部および歯科界のため尽力していく所存ですので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願いいたします。





高度口腔機能  
教育研究センター

原 実 生

令和元年6月1日付で高度口腔機能教育研究センターの特任助教を拝命いたしました原実生（はらみき）と申します。今年大学院を卒業し、臨床、教育、研究と様々な機会で学生の皆さんや他科の先生方と関わらせていただく機会をいただくことも増えてまいりましたのでこの場をお借りして簡単ではありますが自己紹介させていただきます。

私は新潟市東区の出身で、実家は最寄駅から徒歩15分ほど、田んぼの中の住宅街です。小学校から高校まで、電車とバスを乗り継いで本学の近くまで通学していました。小中学校では競泳に打ち込み、高校では野球部のマネージャーをしていましたので毎年夏は真っ黒で驚かれるほどに日焼けをしていました。矯正治療を受けたことをきっかけに歯科に興味をもち、毎年春になると本校の歯学部のある校舎を見て育ってきましたので、自然と新潟大学歯学部への進学を目指していました。しかし残念なことになかなかご縁をいただけず、浪人を経て北海道大学歯学部へ進学しました。

学部時代は学費を自分で支払うことを条件に進学したので、様々なアルバイトを経験しました。そのなかでもたまに近所ということで応募したインド・ネパール料理屋さんで長く働かせていただきました。当時札幌にはスープカレーに続き、インドカレーブームが到来していました。このアルバイトをきっかけにインド料理にはまり、今でも週末には車を走らせカレー屋をめぐり、旅行先でもご当地料理だけでなくおいしいカレー屋を求めてしまうようになりました。全国各地でおいしいカレー屋さんをご存知でしたらぜひ教えてください。勉強そっこのけでアルバイトに明け暮れ、成績はいつもぎりぎりの学生時代で、某基礎教室の教授室で面談をしたこともありました。それでも何とか卒業できたのは様々な場面で支えてくれた同期や先生方のおかげと思っています。

その後研修医から新潟大学に所属させていただいております。大学院では歯周病と全身疾患の関連や、歯周病発症・進行のメカニズムをテーマに研究を行いました。6月からは薬理学教室で、骨の代謝に注目した新たな研究に携わらせていただき、これまでと異なる実験や解析に四苦八苦しながらも、研究・臨床・教育にと充実した日々を過ごしています。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えていただきました歯周診断・再建学分野の多部田康一教授、高度口腔機能教育研究センターの前田健康教授、歯科薬理学分野の佐伯万騎男教授をはじめ、関連する分野の先生方に心より感謝いたします。未熟者ではありますが、新潟大学歯学部への発展に貢献できるよう日々精進してまいります。皆様どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



組織再建口腔外科学分野  
助教

齋 藤 直 朗

2019年4月1日付で組織再建口腔外科学分野の助教を拝命致しました、齋藤直朗（さいとう なおき）と申します。素顔拝見執筆の機会を頂きましたので、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

出身は近年何かと話題の埼玉県です。埼玉でも、県中部に位置する比企郡川島町という電車も通っていない田舎町です。今では圏央道が通り、インター近くには工場が多くなりましたが、当時は田んぼばかりで、見渡して一番高い建物は学校というようなところでした。高校4年目を池袋分校（駿台予備校）で過ごした後、新潟大学歯学部歯学科に入学しました。本学41期生になります。歯学部卒業後は、長岡赤十字病院歯科口腔外科、新潟大学医歯学総合病院口腔再建外科での臨床研修を経て、組織再建口腔外科学分野に大学院生と

して入局しました。大学院卒業後の2年間は富山県立中央病院歯科口腔外科に勤務し、2018年4月に医員として大学に戻ってまいりました。

趣味はカメラです。オリンパス社製OM-D EM-5 mark IIが私の愛機です。もともと写真を撮るのは好きな方でしたが、コンパクトデジカメの域を超えることはなく、SONY RX100を使用していました。しかし、OM-D EM-5 mark IIを手にしてからは、それまでとは違った写真撮影の楽しみを知ってしまい、そこそこに没頭しています。大学を卒業してから運動する機会もめっきり減ってしまいましたが、涼しい時期には写真を撮りに散歩に出かけたりするなど、運動するよいきっかけにもなっている気がします。カメラ購入に際して、迷っていた私の背中をおしてくれた、某M先生にはこの場をお借りして感謝申し上げます。

他の楽しみとしては、月9を見ながら晩酌をすることです。月9といってもコードブルーやラジエーションハウスなどの世間一般で言われているフジテレビ月曜9時枠のドラマではありません。私にとっての月9は、BS-TBSの月曜9時枠「吉田類の酒場放浪記」です。酒場ライター、画家、作家、歌手と幅広く活躍する吉田類さんが、地域のおすすめスポットと居酒屋を紹介するという内容ですが、この番組をつまみに酒がすすむのですから、どうにもやめられません。最近はややタイムリーに見ることができないため、毎回予約録画をしています。これを見ながらの晩酌は大きな楽しみのひとつです。あとは日本酒の四合瓶集めでしょうか。ちょっと日本酒にこだわった居酒屋さんに並んで置いてあるような感じに、我が家にも空いた四合瓶が棚の上に並べてあります。日本酒を飲むのはもちろん好きですが、ラベルも酒蔵ごとになかなか味があり、部屋の飾りにはもってこいです。富山勤務に際して、一度大量の瓶を廃棄したのですが、どうもやめられないようで、最近になりまた集め始めています。

このまま終わってしまうと、埼玉出身の酒とカメラ好きの人になってしまうので、最後に仕事についても簡単に。診療では大学での口腔外科診療に従事し、日々新しい手技を学べることにやりが

いを感じています。また、4月から教員の立場となりましたので、より一層学生教育にも貢献できるようにと意識しています。高校時代には教師になることも考えていたので、人に何かを教えるのは嫌いではありません。学生さん達に鬱陶しがられない程度に丁寧な指導を心がけていきたいと思っています。研究では、学部生時代にお世話になった先生方の影響もあり、骨に関する研究をしています。歯科臨床でも問題となることが多い薬剤関連顎骨壊死は、私のこれまでの臨床経験でも何度か苦い思いをしたことがあり、その発症メカニズム解明につながるような発見ができればと考えています。

自己紹介といいつつも、思いつくままに雑多な内容を書いてしまいましたが、皆様今後ともどうぞよろしくお願い致します。



顎顔面口腔外科

上野山 敦 士

2019年4月より顎顔面口腔外科の助教を拝命致しました上野山敦士と申します。この度、「素顔拝見」への原稿依頼をいただきましたので、この場をお借りして、ご挨拶をかねて略歴と自己紹介などをさせていただきます。

名字の「上野山」が珍しいらしく、よく「かみのやま？どちらの出身？」と聞かれますが、生まれも育ちも新潟市です。また、自分としては物心ついた時から「うえのやま」なので、なぜ「かみのやま」と呼ばれることのほうが多いのか不思議です。それに東京の「上野」もあるので、まずは「うえのやま」って読まないかな？といつも思っています。「うえのやま」です。

さて、出身大学は北の果て北海道大学です。大学入学当初はすすきでの毎晩の夜遊びと華やかなキャンパスライフを夢見ましたが、入った部活は高校からやっていた空手でむさ苦しい男が中心

の部活でお世辞にも爽やかなキャンパスライフとは言えない学生生活でした。北大歯学部には空手部はなく全学の空手部で練習は週6日で厳しくと、さらに年に3回1週間くらいの合宿があり、道場に泊まり込んで練習するのですが、夏合宿が毎年歯学部の試験期間と被るので死にそうになりながら練習と試験勉強をやっていました。まあ、普段から勉強しとけて話なんですけど、追い込まれないとやらない性格なので。ただ、全学の部活のため農学部や工学部、理学部、水産学部、法学部や文学部など様々な学部の連中がいたのでとても楽しかったですし、そういった違う分野の連中と今でも交流できているのは財産だなと思います。

そんな学生生活を歯学部での数少ない友達の力を借りて何とか無事に6年間で卒業し、研修医まで札幌で過ごしました。研修医終了後は思い切って大都会横浜の開業医に就職しましたが、都会の荒波に勝てず、というのは半分冗談で開業医で改めて口腔外科の知識技術の重要性を感じたため、それなら新潟に戻って口腔外科を学ぼうと大学院に入り、現医局にお世話になることにしました。大学院では臨床で口腔外科を学びながら、基礎研究として現在の生体組織再生工学分野の泉教授（当時は口腔解剖学の准教授）のご指導の下で口腔粘膜細胞を使用して培養粘膜の研究を行い、学位を取らせていただきました。大学院修了後は新潟中央病院、長岡赤十字病院にそれぞれ1年間出向したのち大学病院に戻ってきて現在3年目になります。

あとは無難な所で趣味ですが、マラソンです。もともと長距離はとてもきらいでしたが、入局一年目で半強制的に出された新潟マラソンですっかりはまってしまいました。ただ、最近は医局内でマラソンをする人が減り、とても寂しい思いをしています。どなたか顎外科に入局して一緒に走ってくれる方を心よりお待ちしております。

とりとめもないことを書き進めてきましたが、最後にまだまだ至らぬ点の多い未熟者ではありますが、精進して参りますので今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



## 顎顔面口腔外科学分野

永井孝宏

2019年4月1日付で顎顔面口腔外科学分野の助教を拝命した永井孝宏です。このような場で、ご挨拶させて頂く機会は初めてですので、恐縮ではありますが、自己紹介させていただきます。

私は新潟県上越市出身で、1984（S59）年から続いた「3年豪雪」（県内出身の方はご存知と思います）の最後の年、1986年の2月に生まれました。近年は上越市、新潟市ともに小雪が続いていたものの、2017年の冬は豪雪地方新潟を彷彿とさせる雪景色となった事は、記憶に新しいところだと思います。そのような環境で育ったこともあり、幼少よりスキーは嗜んでいました。小学生の頃は活気に溢れていましたので、雪山での骨折も経験しました（泣）。中学・高校では陸上競技に熱中しましたが、両親からのフィジカルの遺伝子は色濃く、低身長・短足というハンデは越えられず、大学ではあっさり硬式庭球部に転向しました。ただ、大学時代も結局、テニス<酒の生活だったと記憶しています。

卒業後は新潟大学の研修プログラム（Bコース）を希望し、2012年4月より新潟大学医歯学総合病院臨床研修歯科医となりました。学生時代には歯科矯正学に興味を持って勉強していましたが、口腔外科は野蛮なイメージ（怒られそうですが笑）で、自分が関わる事は無いだろう、くらいの印象でした。短い研修期間で今後の専門診療を決めるなら、少しでも幅広く学ぼうと思い、保存科（歯の診療科）と口腔外科（新潟労災病院）を選択しました。保存診療では残存する歯に対する、う蝕治療・根管治療の手技と考え方を勉強させて頂きました。口腔外科研修先の新潟労災病院 歯科口腔外科（上越市）は地元でもあり、小手術を中心とした口腔外科の基本と周術期管理、全身麻酔管理を学び、私にとって有意義な研修であったとともに、現在の仕事に繋がる人生の転機とな

りました。同病院の部長方の薦めもあり、2013年4月に顎顔面口腔外科学分野に大学院生として入局しました。

院1年目に口腔外科・麻酔科研修、2年目の10月から慶應義塾大学微生物学・免疫学教室で「HIV感染症」に関わる基礎研究、3、4年目に口腔解剖学分野で「頭蓋顔面形成におけるmicroRNA」をテーマに基礎研究を行い、院卒業後、長岡赤十字病院歯科口腔外科に1年間長期出張の後、2018年4月より大学病院へ復局しました。研修医から現在に至るまで、半年～1年毎に生活スタイルが変化するため、ある意味マンネリ化する事無く、適度？に刺激のある生活が継続できているのだらうと思います。

現在は顎顔面口腔外科で口蓋裂・変形症班に所属し、臨床を中心とする生活で口腔外科診療に邁進しています。また、今回歯科医師8年目となるタイミングで顎顔面口腔外科の助教を拝命したことをきっかけとし、今後はさらなる研鑽を積む必要があると考え、関係各所より御支援賜りながら、今年（2019年）10月よりInselspital, Bern University Hospital Department of Cranio-Maxillofacial Surgery（スイス）へ留学を予定しています。最後になりますが、口腔外科を通じて、これまでに関わった先生方はより一層、そして今後、診療や研究を通して、様々な方と関わる機会が多くなると思いますので、何卒よろしくお願ひ致します。



## 歯周診断・再建学分野

### 野 中 由香莉

2019年4月1日付で歯周診断・再建学分野の助教を拝命しました野中由香莉と申します。この度「素顔拝見」の執筆という貴重な機会をいただきましたので、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

出身は新潟市南区（旧白根市）です。小学校、中学校とも田んぼの真ん中に位置し、中学まで約5kmの農道を自転車で爆走していました。中学・高校では、吹奏楽部でホルンを演奏していました。「オーケストラ楽器別人間学」（茂木大輔/新潮文庫）によれば、ホルン奏者は忍耐強く、熟考癖があり、“ホルンの音域は極めて広く、それもまた奏者の性格に幅と余裕をあたえることになる。細く張りのある高音は強い意志力を、鳴りわたる中音は人間的な幅の広さを、グロテスクな低音は若干のサディスト的傾向をもたらす。”とのこと。当たっているような、いないような。ホルンは、社会人になってからも細々と続けていた私の数少ない趣味の一つです。楽器を吹き鳴らし、周囲の音と一体となるのが、音楽の世界に浸る最高の瞬間です。

大学も地元新潟で過ごし、卓球部に所属しておりました。運動神経、反射神経および動体視力の致命的な欠落により、戦力としては到底活躍できませんでしたが、周囲の皆さまのおかげでなんとか6年間在籍させていただきました。卒後はそのまま本校の歯科総合診療部にて研修医を行いました。先生方の丁寧なご指導のおかげで歯周治療の面白さに目覚め、また、学部生の頃から研究に興味があったことから大学院に進学し、歯周診断・再建学分野に入局しました。大学院生活は心から楽しく、非常に濃密な時間でした。歯周炎と全身疾患の関連や、歯周病原細菌の病原因子についての基礎研究を行いました。そのような中で、ありがたくも研究留学のお話をいただき、大学院卒業

後にアメリカへ渡りました。ラボはカリフォルニア州立大学サンディエゴ校の医学部にあり、そこで私は大学院の時に携わったT細胞の研究を行いました。初めて新潟を離れた地がリゾートサンディエゴだったので、気候が人間に与える影響の大きさを身にしみて感じ、充実した日々を過ごさせていただきました。経験は何にも代えられません。行かなければできなかったこと、出会えなかった人々が私の財産です。

帰国後は歯周診断・再建学分野で再度お世話になり、臨床の経験も積ませていただきました。育休からの復帰後には、日本学術振興会の特別研究

員に採用され、引き続き研究に従事して今に至ります。特別研究員の交流会では秋篠宮妃紀子様と直接に面して、自身の研究内容についてお話をさせていただくという大変貴重な機会も頂きました。今後も多部田康一教授のご指導のもと、自身の仕事が少しでも社会に還元され役に立つ日がくるよう尽力して参ります。

最後になりましたが、歯周診断・再建学分野、歯学部的发展に貢献できるよう、微力ではありますが精一杯努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

